様式４　一般質問通告（会議規則第６１条、運用基準８４）

令和　８年　11月　18日

桑折町議会議長　原　賢志　様

桑折町議会議員
８番　佐藤武朗

# 一般質問通告書

桑折町議会会議規則第６１条第２項により次のとおり通告します。

| 質問事項 | 質問の要旨 | 質問の相手 |
|---|---|---|
| １．伊達桑折インター周辺の開発事業に関して | 桑折町総合計画「21世紀の追分」推進プロジェクトの施策の一つである、三角地区の民間事業者主導による複合型流通業務開発について、現時点で具体的な事業進展が見られない状況と受け止めております。<br>本事業に対しては、これまで多大な職員の事務処理や労力が費やされてきたものと考えられます。また、本計画に伴うインフラ整備等においては、今年度予算を含め約１億円もの費用が投入されると認識しております。<br>多額の公費や行政リソースを投じてきた一方で、事業の停滞が懸念される中、今後、本町としての民間事業者に対してどのような対応、あるいは方針転換を考えられているか伺う。 | 町　長 |
| ２．人口減少社会に対する町の今後の対応について | 現在、本町の人口動態を見ると、自然減が続く一方で、社会増減に関しては転入者が転出者を上回り、若干のプラス傾向にあります。この傾向は、これまで町が取り組んでこられた各種施策が着実に成果を上げているものと評価しております。<br>そこで、今後さらに社会増の基盤を強固にするため、以下の点について伺う。<br>（１）都市的土地利用の推進に関連し、都市計画法34条11項を活用して睦合の成田地区が区域指定となりました。このエリアについて、町としては今後どのような展開や活用を図っていくか考えを伺う。<br>（２）サウンディング調査を取り入れた、醸芳中学校西側エリアの開発が検討されていると承知しており | 町　長 |

様式４　一般質問通告（会議規則第６１条、運用基準８４）

| | | |
|---|---|---|
| | ます。本計画の現在の進捗状況と、事業完了に向けたタイムスケジュールをどのように設定しているか伺う。 | |
| ３．本町の職員の人事異動及び人事配置に関して | 本町のような小規模自治体が抱える行政課題を踏まえ、職員の専門性と組織力の維持・向上について、次の点について町長の所見を伺う。<br>（１）　専門性とキャリア形成の確保について<br>現在、本町においては概ね３年から５年の定期異動が行われていると認識しております。この頻度では、職員が腰を据えて専門性を磨く前に異動となり、いわゆる「庁内転職」とも言える業務負担が生じているのではないかと危惧しております。<br>また、それに伴うノウハウの蓄積の阻害や行政サービスの低下にもつながりかねない、どのように認識されているか伺う。<br>（２）　前例踏襲からの脱却と継続性の確保について<br>異動直後においては、業務上のリスク回避の観点から「前例踏襲」に頼らざるを得ない面もあると考えます。しかし、変化する行政需要に対して機動的な政策推進を図るためには、業務の継続性を担保する人事配置の工夫や、引継ぎ・支援体制の構築が必要と考えますが、現状の取り組みと今後の工夫について伺う。<br>（３）　今後の人事異動等の方針についての変化はあるものか<br>定期ローテーションにとどまらず、特定分野における専門性の登用や、プロジェクト単位での柔軟な職員配置など、時代に即した人事方針へと転換していくべきと考えますが、今後の人材育成および人事管理の方針について伺う。 | 町　長 |
| ４．遊休農地、耕作放棄地の解消について | 現在、我が国の農業は、就農者の高齢化や後継者不足が深刻な社会問題となっており、本町も同様の傾向にあると認識しております。<br>町はこれまで、地域おこし協力隊の活用や、自家農業の継承を支援する「農業後継者奨励事業」など、特に基幹産業である桃生産を中心とした新規就農者・後継者の確保に努めてきています。 | 町　長 |

様式４　一般質問通告（会議規則第６１条、運用基準８４）

| | | |
|---|---|---|
| | しかし、本町には果樹地帯をはじめ、大規模水田地帯や中山間地など多様な農地が存在しており、現状の対策だけで全域の農地を網羅し保全することは極めて困難な状況にあると考えます。<br>全体のカバーは困難だとしても、農地を守るという趣旨のもと、「半田銀山そばの会」が耕作放棄地や遊休農地を活用した「そば栽培」に取り組んでおります。この活動は、荒廃農地の解消に直結するだけでなく、白いそばの花が咲き誇る美しい農村景観の形成など、地域の魅力向上にも大きく寄与しているものと考えております。<br>まだまだ多くの課題が残されていることは承知しておりますが、これを「町のそば文化」へと発展させていくことは、農地保全と地域活性化を両立する有効なまちづくりの一環になり得ると考えますが、町長の所見を伺う。 | |